上川地本青年部ニュース

第6号

【発　　行】
2012年6月20日
自治労上川地方本部
青年部　発行責任者
石川　貴久

北海道青年部長会議で、今後の運動方針を意思統一！！
みんなで団結してガンバロウ！ガンバロウ！！ガンバロウ！！！

職場に運動を根付かせていこう！

～『おかしいことはおかしい』と言える『力と仲間』をすべての職場に～

5月26～27日に札幌市・自治労会館で北海道青年部長会議が開催され、全道から83単組総支部98人うち女性10人が結集した。

1日目は、櫛部賃金労働部長から「公務員制度改革について」と題した講演を受け、公務員労働者の賃金・労働条件の決定のしくみ、公務員制度改革の方向性や地方公務員制度改革の素案の問題点を学習してきた。

▲講演を真剣に聞く仲間たち

5月11日に総務省から示された地方公務員制度の素案には、施行期日の問題や給与条例に「等級別基準職務表」を定め、等級別に職名ごとの職員数の公表の義務付け、人事評価制度の導入が盛り込まれるなど新たな問題も明らかになってきている。

講演後の分散会では、人事評価制度に焦点を置き、率直にどう感じているのか話し合ってきた。分散会では、多くの仲間から「評価制度を導入して、仕事の能力があがるのでは？」「仕事しない上司を評価してほしい」といった声が出された。今の職場の中で、頑張っても報われないといった環境が続けば、仲間との分断が起きかねない。そうさせないためにも、問題を一つひとつ、冷静に考えていかなければならない。

2日目は分散会報告・全体討論を行い、全道の仲間と運動の成果や今抱えている問題を共有してきた。

音威子府村職からは、春闘期に『まなぶ』読み合わせ学習会を開催することで、集会などで学んだことを復習することができ、春闘の意義を深めることができたといった発言や占冠村職からは、月1回の学習会の開催と生活職場実態点検手帳付けなどを継続してつけることで、再び独自削減の提案が出されないように青年部の厳しい生活実態を訴え続けていくといった決意が出されていた。

▲仲間の思いを訴える全体討論

また、上川地本青年部からは、さようなら原発署名上積みの新人ローラー作戦の取り組みから、仲間と向き合い、丁寧に関わることで仲間と思いを共有することができることに気付けたことなどの発言があり、全体で24本の発言となった。

最後に牧野青年部長から「『おかしいことはおかしい』と言える『力と仲間』をすべての職場につくっていこう」と集約があった。

今後、公務員制度改革などめまぐるしい情勢となっていくが、今一度、仲間と向き合い、仲間の声にこだわり、職場に運動を根付かせていこう！！

夏期交まであと3日！

みんなで学習！ワンポイントコーナー

学ぶことは、大切です！！

【機関会議】

労組の大会や中央委員会、代表者会議、執行機関としての執行委員会、などを言う。

部長会議もその一つで、そのほか、定期総会や春闘討論集会がある。

人事評価制度って？冷静になって、本当の制度のねらいを明らかにしていこう！！

部長会議での分散会の様子

～誰かと比較して評価が成り立つ。みんなが頑張っても、評価はされない！～

仲間A「今年の8月から試験的に人事評価制度が入るんだよね。」
座長B「みんなは、評価制度ってどう思う？」
仲間C「係長の仕事のやり方に疑問を感じる。仕事しない係長を評価してほしい！」
仲間D「自分たちの方が真面目に仕事している。評価制度で能力も上がって、全体的にも改善されるならいい制度では？」
仲間E「自分に自信がない。評価されたくない」
座長B「A君、人事評価制度ってどうなの？」
仲間A「例えば、出勤時間が8時30分までで、8時28分、ぎりぎりに来てる職員をどう評価するか。模範的である。模範的でない。どちらか？」
仲間E「遅刻してないけど、でも、模範的でもないような。」
仲間A「ほかの職員は、8時10分には来て、準備をしている。その職員と比べると、模範的でないことになる」
座長B「じゃあ、みんなが8時10分に来てたら、どう評価されるの？」
仲間C「全員が模範的になるのでは？」
仲間A「『みんなができていることなので、当然である』になる！」
全　員「それって、おかしくない？なんのための評価制度？」
座長B「誰かと比較して評価が成り立つ。みんなが頑張っても、評価はされない」
仲間D「じゃあ、評価制度の目的は？」
仲間A「講演で言ってたけど総額人件費が下がって、仲間同士がギスギスするのでは？」
座長B「みんな冷静になって、制度の本当のねらいを明らかにするため学習していこう！評価制度がなくても、仕事にやりがいを持ったり、改善していくための方法を仲間同士で話していこう！」

新入組合員学校

理想と現実のギャップを埋めるのが労働組合

5月11日に旭川市・勤労者福祉会館で、「上川地本青年部新入組合員学校」が開催され、18単組83人うち女性19人が結集した。

講演では、道本部牧野青年部長から「青年部運動とは？」と題し、働く者の視点で考えることを学習してきた。一人では弱い労働者だからこそ、団結することが必要であり、会社あっての労働者ではなく、労働者あっての会社であることを意識していこう！！

その後、分散会に入り、事前アンケートを使いながら、職場の実態討論を行った。採用間もない仲間からは「まだ2ヶ月たっていないが、定時に帰りづらい。上司は帰っていいと言ってくれるが、周りが忙しそうで、帰ることに後ろめたさを感じる」といった声が出ていた。

また、自分のやりたい仕事ができているかといった問いに仲間からは「本当は住民さん宅に訪問したいが、人が少なくてデスクワークで一杯一杯。自分が考える理想と現実は違う」といった不満の声も出された。

こうした自分が描く職場の理想と現実のギャップを埋めるのが労働組合であり、どうにかしたいという思いを周りの仲間と話をし、思いを共有し訴えていくことが大切だ！

労働者の視点『労働者のものの見方・考え方』を養い、日頃から感じる職場の問題や社会の矛盾に、「おかしい」ことは「おかしい」と言える力をつけていかなければならない。

▲講師の道本部青年部長　牧野長武さん

▲採用間もない１～３年目の仲間たち

▲盛り上がりを見せた新組クイズの様子